

平成 22 年度「近畿建設リサイクル表彰」会長賞受賞

日本国土開発株式会社
東京都港区赤坂 4-9-9
代表取締役社長 工藤 睦信

当社は、建設副産物対策近畿地方連絡協議会（事務局：近畿地方整備局企画部）が主催する「平成 22 年度近畿建設リサイクル表彰」にて、大阪支店京都松尾作業所において実施した『汚染土壌のリサイクル』が会長賞（施工部門）を受賞し、平成 23 年 2 月 21 日に表彰式（建設交流館：大阪市西区）が挙行されました。

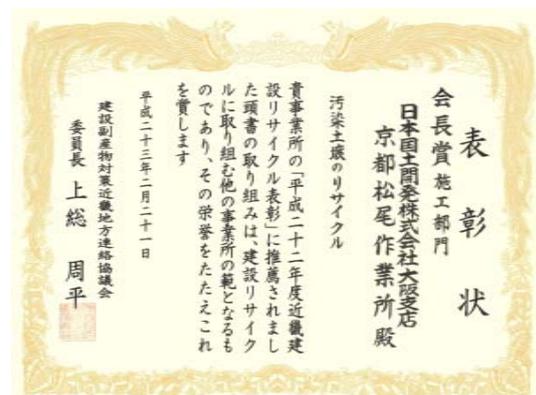
この表彰は、近畿地方において、建設リサイクルの推進を自主的、かつ積極的に取り組んでいる個人、団体または事業者に対し、その活動を賞し奨励することを通じ 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを充実させ、廃棄物などの循環資源が適正・有効に利用・処分される「循環型社会」の構築にむけた行動の輪を広げることを目的としています。

今回当社が受賞した取り組みは、フッ素に汚染された土壌について、環境負荷の少ない、現地に設置したプラントによる分級洗浄（※）工法による、汚染土壌のリサイクルです。

一般的に汚染土壌は、掘削し場外の許可施設（浄化等処理施設、セメント製造施設等）へ搬出し、良質土で掘削箇所を埋め戻す工法（掘削・除去工法）が採用されますが、汚染土の運搬に際して環境に対する負荷が大きく、また汚染土壌を移動させるだけとの考え方もあります。

今回、実施した工法はより環境負荷の低下に配慮しており、また昨年 4 月に施行された改正土壤汚染対策法にも対応しながら、分級洗浄を行った。対象数量は、全土地面積 8,000 m²、対策土量 14,430 m³（フッ素の土壤溶出量基準 0.8mg/l を超える数量）でしたが、場内洗浄処理 12,770 m³、場外搬出処理 1,660 m³で汚染土壌の約 90% を現地でリサイクルしました。こうした一連の取り組みが高く評価され、今回の受賞となりましたが、この受賞を励みに、今後もさらに循環型社会の形成に貢献して参ります。

※ 分級洗浄とは、汚染土壌を水洗浄等することで、土壌に含まれる有害なフッ素を水に移行させ、分級により清浄な土壌は現地で埋め戻し材としてリサイクルし、汚染を含む微細分はセメントの原材料として再利用する施設に搬出することで、セメント材にリサイクルしています。



この件に関するお問い合わせは